

## 2017年度上半期は増収、増益を達成 通期の業績予想を上方修正

売上高

**700**億  
7千3百万円  
(前年同期比+0.1%)

営業利益

**34**億  
7千4百万円  
(前年同期比+8.2%)

親会社株主に帰属する  
四半期純利益

**24**億  
2千8百万円  
(前年同期比+14.4%)

1株当たり中間配当金

**15**円

総資産

**1,168**億  
4千9百万円

純資産  
(自己資本比率)

**805**億  
2千6百万円  
(66.8%)

### 1株当たり配当金

グループの成長と企業価値の増大、長期的な経営基盤の充実に向けた内部留保とのバランスを考慮し、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元に努めます。  
1株当たりの配当金は年額20円を下限とした安定配当に加えて、業績に連動した配当として、連結ベースで配当性向30%を目標にしています。  
(2018年3月期 期末配当予想)1株当たり25円(年間配当は1株当たり40円)

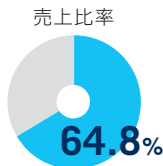
2018年3月期 業績予想

売上高 …………… 1,465億円  
(前年同期比+2.7%)

営業利益 …………… 63億円  
(前年同期比-1.5%)

## 地上波放送事業

■売上高	<b>541億5千6百万円</b> (前年同期比-2.3%)
■営業利益	<b>32億8千3百万円</b> (前年同期比+5.5%)



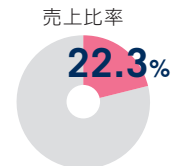
放送収入のうち番組を提供するタイムCM収入は、営業企画や『全仏オープンテニス2017』『世界卓球2017』などの特番セールスは計画通りに進んだものの、昨年開催されたリオデジャネイロオリンピックの反動もあり減収となりました。また、番組の間流れるスポットCM収入は枠運用の効率化と販促企画を講じたものの減収となりました。

ソフトライツ収入では、映像配信企業との連動企画によるドラマの配信権利や、『勇者ヨシヒコ』シリーズをはじめとする深夜ドラマのDVDと配信追加印税が好調でした。一方、海外番組部門は前年度に比べ伸び悩みました。アニメ事業では、海外で『NARUTO』の配信、ゲームを中心に堅調に推移しました。

【連結子会社】(株)テレビ東京

## 放送周辺事業

■売上高	<b>186億1千2百万円</b> (前年同期比+6.6%)
■営業利益	<b>14億4千9百万円</b> (前年同期比+11.3%)



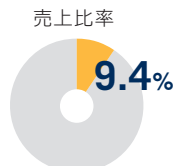
音楽出版関連はアニメ楽曲の印税収入により堅調でした。通信販売関連では、『なないろ日和!』をはじめとする通販事業が放送時間の拡大もあって好調だったほか、4月新番組『よじごじDays』の広告関連売上も増加しました。

CS放送関連では、アニメ専門チャンネル「AT-X」は加入者数の減少傾向が続きました。

【連結子会社】(株)テレビ東京ミュージック／(株)テレビ東京メディアネット／(株)テレビ東京コマース／(株)テレビ東京アート／(株)テレビ東京システム／(株)テレビ東京制作／(株)テレビ東京ダイレクト／(株)テレビ東京ヒューマン／(株)テクノマックス／(株)テレビ東京ビジネスサービス／(株)イー・ティー・エックス／TV TOKYO AMERICA, INC.

## BS放送事業

■売上高	<b>78億2千万円</b> (前年同期比0.0%)
■営業利益	<b>3億7千1百万円</b> (前年同期比-45.7%)



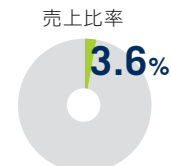
放送収入は、『昭和音楽祭』などの特番セールスが好調だったほか、スポットセールスも期後半から回復基調になっています。

費用面では、昨年の本社移転による費用増加のほか、特別番組の内容強化のための番組制作費の増加がありました。

【連結子会社】(株)BSジャパン

## インターネット・モバイル事業

■売上高	<b>30億2千6百万円</b> (前年同期比+37.5%)
■営業利益	<b>1億7千6百万円</b> (前年同期比-5.8%)



インターネット・モバイル事業では、お取り寄せグルメ「虎ノ門市場」が好調だったほか、クロスメディア広告企画が引き続き好調でした。キャラクター関連では、国内、海外のライセンスを獲得したほか、その他アプリ等の開発売上が予想を上回りました。

費用面では、プロモーション強化のための広告宣伝費の増加等がありました。

【連結子会社】(株)テレビ東京コミュニケーションズ